

栃尾の石川雲蝶を訪ねる

石川雲蝶《文化11年(1814)～明治16年(1883)》は、江戸の雑司ヶ谷に生まれ本名は安兵衛。20代で江戸彫りの一流派・石川流の本流門人として名を馳せ、30代で越後に入り、三条・魚沼をはじめ近隣各地で活躍した雲蝶の栃尾での足跡を訪ねる。

躍動感あふれる秋葉大権現の象徴「天狗」を刻む

あきばじんじゃ

秋葉神社奥の院

[長岡市谷内2丁目]

スマホ用地図 カーナビ用地図



58 209 291

平安中期から末期、市内^{にればら}榆原の岩野蔵王堂の三尺坊で厳しい修行の末悟りを開いた^{かねくに}周国は、^{びやっこ}白狐に騎って飛び立ち遠州(静岡県)の秋葉山に舞い降りて、火防の信仰を広め、秋葉三尺坊大権現と呼ばれて^{すうけい}崇敬された。

戦国時代、上杉謙信公は自身の上洛と天皇拝謁に^{はいえつ}尽力した^{たいれんもんさつおしょう}泰簾門察和尚に常安寺を建立してその功に報い、同時に榆原にあった秋葉三尺坊大権現を祀る般若院とその社領を寄進し境内に遷宮した。

江戸時代、常安寺秋葉三尺坊大権現は遠州秋葉山とともに「秋葉信仰の二大霊山」と裁定されるや一躍有名となり繁栄を極めた。安永5年(1776)現在の場所に秋葉三尺坊大権現が、さらに弘化3年(1846)には奥の院が建立された。その後、宮彫りは石川雲蝶と小林源太郎により8年の歳月を掛けて安政3年(1856)に彫り上げられた。

雲蝶による「烏天狗と牛若丸」の三枚の彫り物はもちろん、源太郎による^{から は ふ}唐破風の鷹や龍の^{こう}虹梁など、縁の下から天井に至るまで隈なく彫り物で埋め尽くされている。鞘堂や天候により暗く感じる場合があるため、鑑賞には懐中電灯を持参したい。

^{ひぶせ}火伏の神として名高く、「火防日本総本廟秋葉大権現」として多くの崇拝を集める秋葉神社。毎年7月24日の三尺坊の命日には、「秋葉の火祭り」が盛大に開催される。



栃尾織物の源流を今に伝える宮彫り

たかのりじんじゃ
貴渡神社

スマホ用地図 カーナビ用地図



318 064 698

[長岡市栃堀]

(巢守神社)

貴渡神社は、刈谷田川の上流・栃堀地区の^{すもりじんじゃ}巢守神社境内にあり、建立は嘉永元年(1848)である。この神社は栃尾織物の基礎を築き、^{しまつむぎ}縞紬の名声を高めた庄屋・^{うえむらかくざ}植村角左衛門^{えもんたかのり}貴渡翁を祀っている。貴渡神社とは翁の号から付けられたもので、特に織物関係者からは「^{はた}機神様」と呼ばれ、^{すうけい}崇敬されている。



建立の由来どおり雲蝶の宮彫りも絹織物をテーマに、桑負いから繭をとるまでの一連の養蚕の過程と、繭煮から機織りまでの様子が表現されている。興味深いのは彫り出された人物の服装や表情、ソテツと思われる植物など全体を通して中国的な点である。また、御堂の上部側面には十二支の彫り物が見られるが、これらも同じく雲蝶の作である。これら宮彫りの中には思いがけない彫り物が隠されており、それらを発見することもひとつの楽しみである。雲蝶からの密かな贈り物と言えよう。

※普段は施錠されているため、拝観の際は事前にご連絡ください。(栃堀区事務所 0258-52-3521 受付平日 9:00~12:00)
※より良い状態で後世に残すため、維持管理費として「おひとり 200 円」のお賽銭にご協力ください。



お問合せ:(一社)栃尾観光協会

〒940-0233 新潟県長岡市栃尾宮沢 1764

TEL0258-51-1195 FAX0258-51-1190

<http://tochiokankou.jp/>



発行: 栃尾観光ガイドクラブ